

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	2172100881
法人名	(医)静風会
事業所名	グループホーム HIPPO
訪問調査日	平成 19年8月23日
評価確定日	平成 19年9月11日
評価機関名	NPO法人 旅人とたいようの会

○項目番号について  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2172100881
法人名	(医)静風会
事業所名	グループホーム HIPPO
所在地	大垣市室村町1-178 (電話) 83-7775

評価機関名	旅人とたいようの会		
所在地	大垣市伝馬町110		
訪問調査日	平成19年8月23日	評価確定日	平成19年9月11日

## 【情報提供票より】(19年8月3日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 6.5 人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有( ) 円 無○			
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(120000円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無○	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1200		円	

### (4) 利用者の概要(8月3日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 77 歳	最低 75 歳	最高 89 歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大垣病院	谷川歯科
---------	------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地に位置し改造型のホームである。名称の「HIPPO」は動物の「カバ」を意味する。カバは川の字になって休み、寄り添い安心してゆったりできる家族の姿を現している。理念は「馴染みの人間関係の中で安心してゆったり暮らす」であり、人間関係は利用者・家族・地域住民・職員と全ての関係を大切にしている。認知症を理解し介護に熱意ある管理者を中心に職員の表情や関わり方は利用者の穏やかな姿や言葉から察せられる。環境は改良型でゆとりはないが「狭いながらも楽しい我が家」で利用者の保有能力を活かしながら職員の工夫で支援している。又地域住民との良好な協力体制が結ばれていたり、法人の病院とも連携しており最後まで利用者や家族にとって安心できる医療体制がある。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価は玄関に公開している。要改善点「介護計画の職員間の共有・見直し」「鍵をかけないケアの実践」「緊急時の手当て」「継続的な研修の受講」「地域の人達との交流の促進」等ホーム全体で整理し改善に向けた努力の取り組みが見られる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価を踏まえ、今回も自己評価を全職員で取り組み質の向上に積極的である。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は義務化の初期から参加メンバーが参加しやすい夜間に定め、利用者参加型でホームの居間で開催している。法人の意向説明、利用者自身の言葉から認知症(ホーム)の理解が得られたり、地域住民の協力等穏やかに話しあい、意見交換や協力交流が進められている。行政担当者も時間に合わせて積極的に参加し意見交換や助言が得られている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月「HIPPOたより」で運営推進会議の内容や、利用者の生活状態・行事予定・行事報告及び金銭の収支を報告している。利用者・家族の意見や要望等、些細なことでも言ってもらえる雰囲気や声かけを常に心がけ、職員も配慮して接しホーム運営に反映させたい意向がある。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し広報が届いたり、近隣の子供が気軽に遊びにきたり、スーパー店員やクリーニング屋が出入りし散歩時にも挨拶したりお花を頂いたり馴染みの関係がある。自治会とは婦人部研修の緊急救命講習を一緒に受講したり、防災訓練を一緒にしたり、隣家とは防犯ブザーで緊急連絡できる体制がある。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	医	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時から、運営方針を理念と重ね「馴染みある人間関係の中でゆったりと暮らす」を掲げ、特に人間関係は地域との関係を重視している。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のケア会議には、利用者との関係・家族との関係・近隣住民との関係・職員との関係など「関係づくり」の大切さを話し合っ共有している。		
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の一員として広報が届いたり、近隣の小学生が気軽に遊びに来たり、スーパーやクリーニング店が出入りしている。自治会婦人部の研修(救急救命法)や夏祭り、草取りに参加したり散歩中にも声をかけられ花をもらったり交流がある。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を玄関に掲示し、職員も目を通し実態を把握し改善に取り組んでいる。今回の自己評価も全職員で取り組みより質の確保・向上に努めている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	義務化の初回からメンバーが出やすい夜間7時(行政も出席)を定め、利用者参加型で居間で開催している。法人の意向説明や、利用者の声が会を盛り上げ、地域代表や参加メンバーもホーム(認知症)の理解が得られ和やかな交流が出来ている。		

外部	自己	項目	医	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議開催打ち合わせ、行政提出書類の指導、権利擁護の関わりなど窓口に行ったり、市職員の行き来で意見交換やアドバイスを受けている。管理者は行政担当者と相談しながら「介護の出前講座」の計画も考えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「HIPPOたより」では個人情報に配慮しながら、利用者の状態、行事予定・報告(行事・誕生会・運営推進会議)職員の異動など知らせている。時には手紙で利用者一人ひとりの状態や写真を添えて知らせている。また訪問時には利用者の日常を知らせ意見や要望を尋ねている。特に変化や緊急時は電話で知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の席や、利用者の家族には常に問いかけ、なんでも言ってもらえる関係づくり、雰囲気づくりや場面づくりを職員は心がけているが、「サービス向上のため、もっともつと意見が聞きたい」と管理者は願っている。	○	管理者は「家族の気持ちを知りたい」、「本音を知りたい」と云う強い気持ちがある。「家族の満足度調査」を実施するのの一つの方法かと考える、職員間で検討されたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職をなくす為、昼休みを利用し、他愛無い話でコミュニケーションを図っている。やむなく代わる場合は「HIPPO」たよりで知らせたり利用者との関わりを増やし混乱のない配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修・外部研修は職員の希望にあわせ、勤務体制を整え受講している。研修後は勉強会を設け共有周知している。職員はサービス向上に意欲があり、学びたいという意欲がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協議会に加入し情報を得ている。職員が自発的に見学したり、離職職員との交流や、研修をきっかけで交流が出来たり、相互のホーム見学や意見交換をしている。		

外部	自己	項目	医	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	多くが法人病院から医師の紹介入居で、医師や職員とも馴染みの関係にある。馴染みのない場合は、家族や本人がホームの雰囲気に馴染めるか2回以上の見学や体験を経て、利用者本位を重視して契約をしている。入居後は利用者が混乱しないよう職員が心配りしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も家族(ホーム)の一員として信頼関係を大切にしている。就寝前には好みのお茶を飲みながら、ほっとした、和やかな、ゆとりの時間を作っている。昔話をしたり、利用者の得意なことを紹介したり、他愛ない会話から利用者を知ることが出来たり、職員も教えられることがあり、介護計画に活かしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の暮らしや、就寝前にお茶を飲みながら、利用者とは他愛ない会話を大切にしている。暑中見舞いを出したい、絵を描きたい、唄いたい、タバコを吸いたいのような、買い物、外出、喫茶店、趣味などへの思いや意向の把握に努め職員で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意向を繰り返し尋ねている。日常生活記録から職員の意見を取り入れ介護計画を立てているが、課題(ニーズ)が大まかで、内容が記録に落とし切れないのが残念である。計画は家族の同意を得ている。	○	介護計画が日常の支援に連動して記録しているか？計画が職員の中で確認しているか？計画に無理はないか？など職員間で再考検討を期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは6ヶ月を定期としている。毎月介護支援経過表をまとめ、3ヶ月に1回担当者会議を開催し検討している。急な変化には即見直し対応している。		

外部	自己	項目	医	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	歯科受診を家族に代わって送迎している。又法人の施設の空き時間を利用し、機能訓練や体力づくりをして柔軟に支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問看護が週2回あり日常のバイタルや身体状態の把握をしている。協力医師の往診はないが訪問看護と連携は蜜で安心できる。利用者は法人病院に月2回受診に出かけている。体調不良・緊急時についてもいつでも相談助言が得られる体制がある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人病院と連携があり、医療処置の段階では法人病院に移ることが契約時に説明され家族・利用者の同意を得ている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の扱いについては、契約時に説明了解をえている。法人内で接遇の学習をし、常に会議でも話し合い記録も利用者の前で開かないこと、排泄介助など自尊心を損ねない声かけに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくり朝食をする利用者、タクシーで自宅に衣服を取りに行ったり、馴染みの美容院に出かける、友達と電話をするなど利用者のペースで一日をすごしている。タバコの好きな男性利用者は喫煙所でくつろぎ満足顔である。		

外部	自己	項目	医	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配達された食材を、利用者の好みを取り入れ一緒に調理したり配膳している。箸を並べる、食器を拭く、食事の雰囲気を作る利用者などそれぞれ役割が楽しみになっている。食前に嚥下体操で誤嚥を予防し、男性利用者が「今日はカレーライスです、では頂きましょう」の声かけで職員も一緒に会話を楽しみながら食事をすすめ「ご馳走様でした」で片付けの役割につながり家庭的に感じる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	男性・女性と隔日入浴・清拭となっている、希望があれば毎日入浴できる。訪問看護によってバイタル、皮膚観察をし感染予防をしている。夜間入浴は希望もなく実施していない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の過去の誇らしい生活体験を尊重し、調理に、散歩に、接待に、歌に、買い物に、行事進行に役割を担ってもらい利用者の楽しい豊かな時間を作りながらホームの日々を送り職員も支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常は散歩やドライブや階下の託児所の子供達との遊びを中心に、誕生会・喫茶店・図書館、神社など利用者の一人ひとりの希望に合わせて外出できるよう支援している。法人施設の行事や自治会の盆祭りに参加して戸外に出かけ交流を進めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を職員は認識しているが、ホームが2階であることから安全を重視してやむを得ず施錠している。2階の玄関は出る時のみ鍵が必要になっている。	○	安全を第一に考えることは理解できるが、常に利用者の状態を把握しながら、鍵について全職員で話し合い、時々工夫と再考が望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人施設と連携を蜜にししながら、地域自治体とも連携で訓練をしたり、隣家と防犯ブザーで連絡できたり、玄関に緊急用のシーツを準備している。食料の備蓄は法人と合同である。		

外部	自己	項目	医	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士の献立を基に毎日スーパーから食材が届く。食材を3食(朝昼夕)独自に献立メニューで調理している。記録で摂取量・水分摂取量・バランス等をよく考え管理栄養士の意見を聞いている。2ヶ月に1度の血液検査で体調チェックし医師の指導を受けている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ヒポは「カバ」を意味しその看板を掲げている。玄関に手づくりで季節の草花を植え、改造型で狭いが喫煙場所を確保し、常に身近に人の気配を感じるよう工夫している。職員手づくりのカレンダーは月のスケジュールが一目できる。「今日は○月○日です」今は朝です「おはよう」今は昼です「こんにちは」と張り変え、時を確認している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビ、両親の写真、化粧品、栄養ドリンク、靴、傘、ベビーベッドにぬいぐるみを寝かせ、整理筆筒、くつろぎ椅子、野球好きのドラゴンズグッズなど馴染みの物、思い出の物など利用者の生活必需品が好みに合わせて配置して、居心地よさを感じる。		